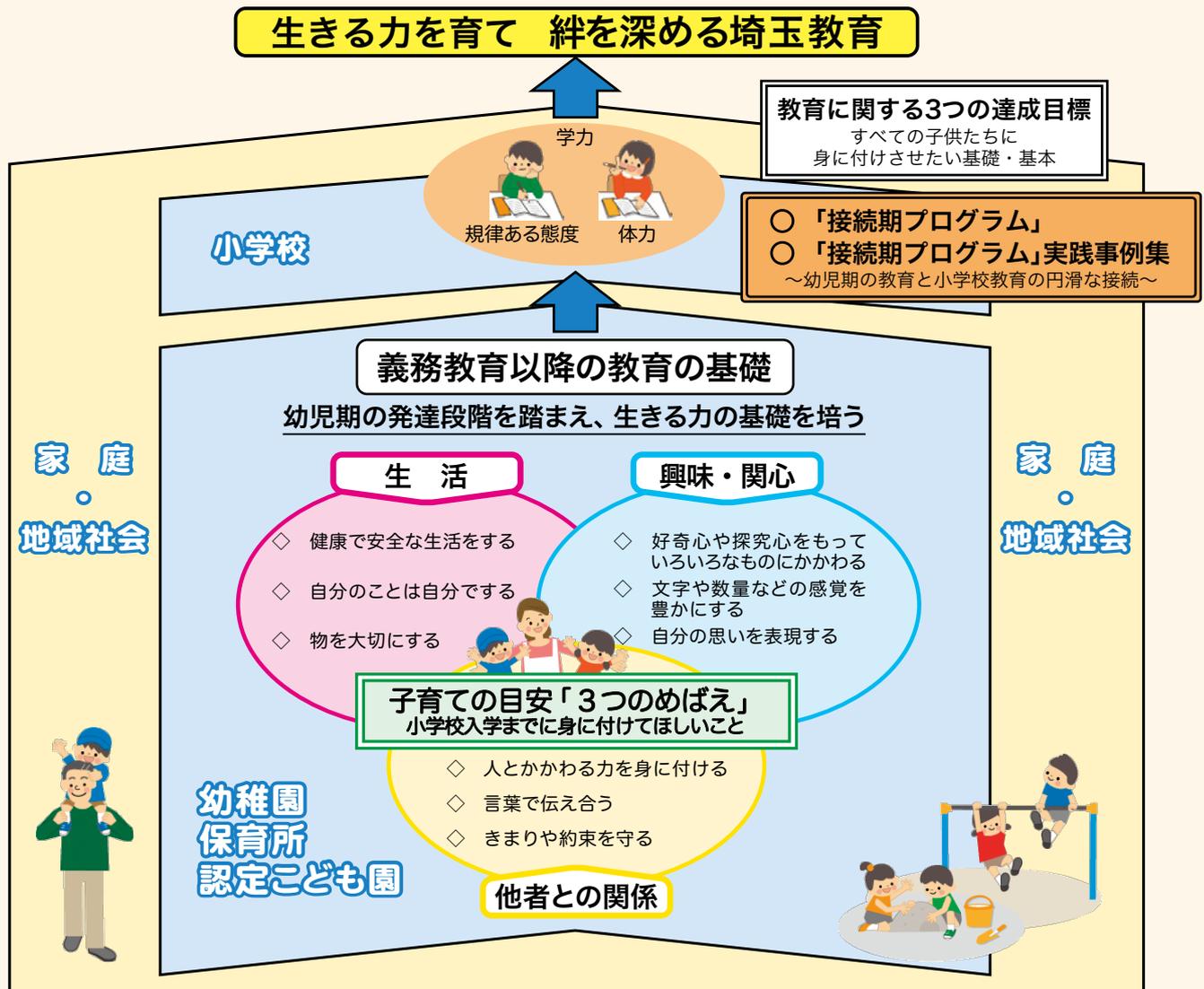




幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けて

幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続については、平成20年に示された小学校学習指導要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に規定されています。遊びを通して学ぶ幼児期から、教科等の学習を中心とした小学校教育への移行や接続が滑らかになるよう、幼稚園・保育所等と小学校との連携を図ることが求められています。本パンフレットを幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続にお役立てください。

- 子育ての目安「3つのめばえ」・・・小学校入学までに幼児に身に付けてほしいこと
幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されたねらいと内容を踏まえながら、「生活」「他者との関係」「興味・関心」の3つの視点から小学校入学までに身に付けてほしいことをまとめたものです。日常の保育や教育、家庭との連携、幼・保・小の合同研修会等において御活用ください。
- 「接続期プログラム」・・・接続期（1月～5月）におけるカリキュラム作成の指針
幼稚園・保育所・認定こども園では、「アプローチカリキュラム」の作成や工夫、小学校では、「スタートカリキュラム」の作成や工夫をする際の資料として御活用ください。また、研究指定校（園）の具体的取組を掲載した実践事例集も併せて御活用ください。



家庭と幼稚園・保育所・認定こども園、小学校が手を取り合って、健やかな子供の育ちを支えましょう。

家庭で身に付けてほしいこと

規則正しい生活リズムを身に付けましょう

- ・「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣を身に付ける
- ・登園などの時刻を意識し、行動する

戸外で遊びましょう

- ・進んで戸外に出て遊ぶ
- ・安全に気を付けて行動する
- ・交通ルールを知り、守る

自分のことは自分でしましょう

- ・着替えや衣服の始末をする
- ・かばんや帽子などを決まった場所にしまう
- ・脱いだ靴をそろえる

物を大切にしましょう

- ・遊んだ後の片付けをする
- ・食べ物や紙などを大切に使う

家族とのあたたかいつながりをつくりましょう

- ・園での出来事や思ったこと、考えたことを家族に話す
- ・家の手伝いをする
- ・兄弟姉妹や友達と遊具などの貸し借りをして一緒に遊ぶ
- ・小さい子供やお年寄りに思いやりをもって接する

返事やあいさつをしましょう

- ・元気よく「はい」と返事をする
- ・「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言える

きまりや約束を守りましょう

- ・よいこと、悪いことがわかり、考えながら行動する

いろいろなものへの興味・関心を高めましょう

- ・身近な自然などに触れ、美しさや不思議さなどを感じる
- ・興味・関心をもったものにじっくりと取り組む
- ・いろいろなものに疑問をもち、尋ねる

生活の中で、文字や数などに触れましょう

- ・家の人に絵本や物語を読んでもらう
- ・数を数えたり、集めたり、分けたりする
- ・園の名前や自分の年齢などが言える

夢をもちましょう

- ・やってみたいことやなりたい人などのあこがれをもつ

子育ての目安

「3つのめばえ」

生活

健康で安全な生活をする

自分のことは自分でする

物を大切にする

他者との関係

人とかかわる力を身に付ける

言葉で伝え合う

きまりや約束を守る

興味・関心

好奇心や探究心をもっていろいろなものにかかわる

文字や数量などの感覚を豊かにする

自分の思いを表現する

幼稚園・保育所・認定こども園で身に付けてほしいこと

先生や友達と食べることを楽しむ

- ・食事に関するきまりやマナーを守りながら、楽しく食べる
- ・食べることの大切さがわかり、食べ物に関心をもつ
- ・生活の流れや準備・片付けの手順などを意識して、一定の時間内に食べ終えようとする

戸外で体を動かす

- ・十分に体を動かして遊ぶ

安全に気をつけて行動する

- ・危険な場所や危険な行動がわかり、安全に気をつける

生活に必要な活動を自分でする

- ・着替えや持ち物の始末を自分でする
- ・脱いだ靴をそろえる
- ・困ったときに自分で考えて解決しようしたり、先生や友達に相談したりする

自分の物や皆で使う物を大切にする

- ・遊んだ後の片付けをする
- ・共同で遊具を使い、協力して片付けをする
- ・水や紙などを大切に使う

友達と一緒に遊ぶ

- ・年少児などに思いやりをもってかかわる
- ・自分の気持ちとは異なる友達の気持ちを理解したり、共感したりする
- ・自分が嫌なことや困ることは友達にもしない
- ・友達と共通の目的に向かって取り組み、やり遂げた喜びを味わう

親しみをもって日常のあいさつをする

- ・元気よく「はい」と返事をする
- ・先生や友達に「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言える

言葉をとおして先生や友達と心を通わせる

- ・先生や友達の話を注意して聞き、理解する
- ・自分の思いや考えを先生や友達に言葉で伝える

友達と共に生活する充実感を味わう

- ・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする
- ・集団の生活の流れや時刻を意識し、みんなと一緒に行動しようとする
- ・よいこと、悪いことがわかり、考えながら行動する
- ・互いのよさを認め合い、友達と協力して活動する

生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れる

- ・身近な自然などに触れて遊び、美しさや不思議さなどを感じる
- ・自然物や自然の事象を遊びや生活に取り入れ、四季を感じる
- ・動植物と触れ合い、生命の大切さに気付く

興味・関心をもったものに集中して取り組む

- ・考えたり工夫したりして遊ぶ
- ・いろいろなものに関心もち、より深く知ろうとしたり、試したり確かめたりする
- ・話や短い物語を集中して聞く

生活の中で文字や数量に触れる

- ・文字で伝えることの楽しさや意味に気付き、生活の中で文字を使う物や人の数を数えたり比べたりする
- ・生活のいろいろな場面で、量を測ったり比べたりする

自分の思いを表現する

- ・思ったことや感じたことを言葉で表現しようとする
- ・考えたことや経験したことをいろいろな方法で表現する
- ・絵本や物語の世界を楽しみ、感動を味わったり、演じて遊んだりする

幼児期の教育

「遊び」をとおして行う総合的な指導から

生活

健康で安全な生活をし、元気に遊ぶことをとおして、自分から積極的に物事にかかわる姿勢が身に付きます。

自分のことを自分で行い、進んで行動できることは、小学校生活における意欲につながり、ひいては、社会に出ても自ら考え、進んで物事を解決しようとする力になります。

他者との関係

幼児期においては、家族とのあたたかいつながりを基盤として、人を信頼する気持ち、他者への思いやり、社会のきまりを守ろうとする気持ちをはぐくんでいます。

また、友達と共通の目的をもって取り組む活動（協同的な学び）を重視することが、小学校教育へとつながっていきます。

興味・関心

「ふしぎだな」「おもしろいな」と興味・関心をもち、気づいたり、考えたり、試したりする中で、「できた」「わかった」という体験を重ね、学ぶことの楽しさを知ります。

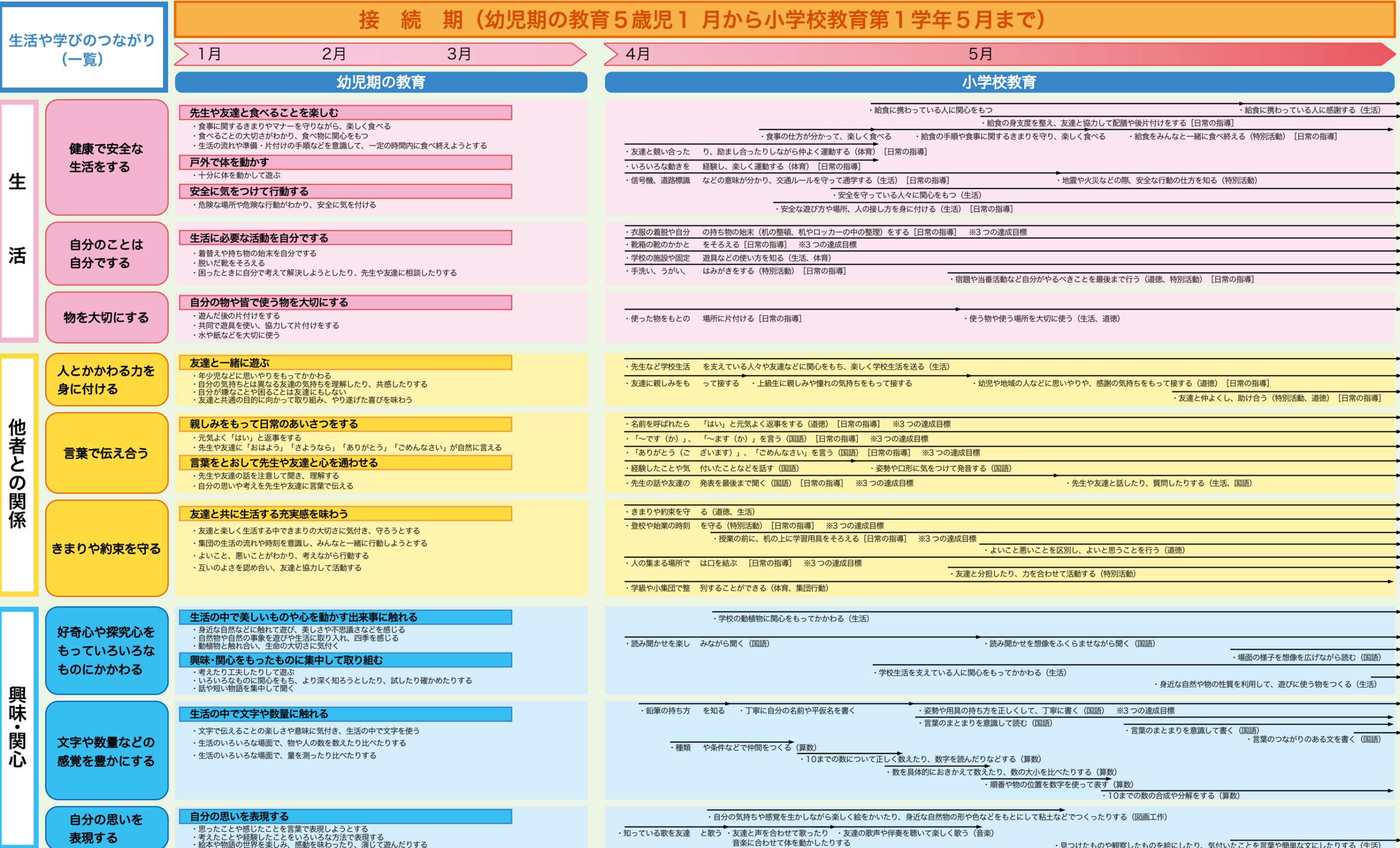
幼児期に豊かな体験を重ねることにより、小学校での学習の内容を実感をもって理解することができるようになります。

小学校教育

教科等の学習を中心とした指導へ

接続期プログラム (幼児期の教育と小学校教育の連続性)

○生活や学びのつながり



*()内は、教科等で指導する [日常の指導]は、学校生活において日常でも指導する ※3つの達成目標とのかかわり → は、指導時期の目安

○カリキュラム作成の配慮と工夫のポイント

・アプローチカリキュラム作成のために(幼児期の教育5歳児)

配慮と工夫のポイント

アプローチカリキュラム作成例

配慮と工夫のポイント

時間の工夫

- 修了に近い時期には、小学校での生活に配慮して、学級全員で活動することを意識的に取り入れるようにします。
- 登降園時の活動や当番活動、昼食の準備・片付けなど一日の生活の流れが分かって、自分から進んで行動できるようにします。

保育の工夫

- 友達と目的を共有し役割を分担して一緒に遊ぶ中で、充実感や達成感を味わい、意欲的に生活できるようにします。
- 自然の素材や自然現象などを遊びに取り入れ、自然の不思議さを十分に体験できるようにします。
- 友達と一緒に遊ぶ中で、考えたり試したり工夫したりする経験が十分できるようにします。
- 友達と互いに表現し合いながら、歌や動き、描画、言葉など様々な表現のおもしろさを感じることができるようになります。

人間関係の配慮

- 友達と共に生活する中で、互いのよさを分かり合い、信頼関係を十分に築くようにします。
- 小学生とかかわる中で、あこがれの気持ちをもてるようにします。
- 行事などをとおして、年少児や地域の人々とかかわる機会を設け、いろいろな人に親しみをもてるようにします。

5歳児1月～3月	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に必要なきまりを自分たちで作成し、友達同士で教え合うなどしてそのきまりを守って遊ぶようになる。 遊びの継続時間が長くなり、じっくりと取り組むようになる。これまで大勢での遊びに加わりたしなかった幼児も、自分から参加するようになる。 修了を意識して生活発表会に意欲的に取り組み、自分の意見を出し合っ、自分たちで劇の道具を作ったりセリフを考えるようになる。 皆と一緒に活動し、力を合わせてやり遂げる喜びを味わえるような生活の中で、学級の集団としての意識が高まる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 大勢の友達と目的を共有し、友達と相談しながら見通しをもって進める。 目的や課題に向かい、根気強く取り組んだり、工夫したりしてやり遂げた喜びを味わう。 冬の自然現象に興味をもち、見たり試したりする。 小学校入学を喜び、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、身近な人々への感謝の気持ちをもつ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に同じ目的に向かって活動に取り組み、相談したり工夫したりしてやり遂げる。 生活の中で標識や文字の必要性に気付く。 音楽に親しみ、イメージを楽器や体の動きなどで表現する。 共同で使う道具や用具を大切に使う。 生活に必要な物を工夫して描いたり作ったりする。 感謝の気持ちを身近な人に伝えようとする。
環境の構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> 一日の生活の流れを意識して活動できるようにする。 生活発表会など、友達とイメージを共有し見通しをもって取り組むことを通して、やり遂げた喜びと満足感が味わえるようにする。 修了の記念品づくりや修了式までの準備などは、各自が思いを込めて取り組めるように計画し、園生活最後の時期を充実感をもって過ごせるようにする。 小学校を見学したり小学校の先生の話や話を聞いたりして、小学校入学への期待感と自覚を高める。 霜柱や氷、雪など冬の自然現象に気付かせ、触れて遊ぶ中で、不思議に思ったり、試したり調べたりする経験ができるようにする。 就学に向けて、一人一人の育ちを確かめ家庭との連携を図る。

家庭との連携

- 基本的な生活習慣を身に付け自分のできるように、家庭と連携をとり、子供の育ちを確かめます。
- 保護者会や個人面談などを行い、保護者に小学校入学までの生活の見通しを伝えます。保護者の不安に対しては、小学校と連絡を取り合っ対応できるように園所の体制を整えます。

きまりへの適応と安全への配慮

- 友達と共に気持ちよく過ごすためにはルールが必要なことがわかり、守ろうとする気持ちを育みます。
- 友達と共に生活する中で、自分の気持ちを伝えたり、時には折り合いを付け自分の気持ちを調整したりすることを経験できるようにします。
- お別れ遠足では、交通ルールを守って行動することや公共の場での行動の仕方などを知らせます。

小学校生活に向けての配慮

- 小学生と交流することをとおして、あこがれの気持ちを抱き、小学校生活に期待をもてるようにします。
- 学校見学や学校体験をとおして、小学校の施設や生活の様子を知り、入学への期待と自覚をもてるようにします。
- 幼児期における指導の経過を要録にまとめ、小学校へと引き継ぎます。子育ての目安「3つのめばえ」を活用し、子供の育ちを確かめます。

・スタートカリキュラム作成のために(小学1年生)

配慮と工夫のポイント

スタートカリキュラム作成例

配慮と工夫のポイント

時間割の工夫

- 生活科を核とした総合的な指導を取り入れることで、子供の思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めます。
- モジュール学習を取り入れ、子供の実態に応じて、徐々に45分の授業に慣れるようにします。

授業の工夫

- 体験的な活動や操作などを取り入れることで、これまでの子供たちの経験が生かされ、分かりやすい授業になり、学習意欲が高まります。
- 子供たちができることを認めたり、励ましたりして満足感・充実感をもって学習できるようにします。
- 専科、学習補助員などが授業に入ることで、一人一人の子供にきめ細やかに対応します。

人間関係の配慮

- 学年やグループなどの活動を取り入れることで、親しい友達とのかかわりを軸に子供同士の人間関係が広がります。
- 学校生活の始まりには、子供たちが不安を感じがちです。日々の健康観察や下校時に一言声を掛けるなど、子供との信頼関係を築くことを心がけます。

	4月9日(月)	4月10日(火)	4月11日(水)	4月12日(木)	4月13日(金)
ねらい	第1週 テーマ【 がっこうだいすき たのしい ○○しょうがっこう 】 ○学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、小学校生活を楽しく過ごす				
業前	○○タイム「(例)いきいきタイム」、あいさつ・健康観察 ☆名前を呼ばれたら元氣よく「はい」と返事をする。				
活動内容	いきいきタイムがはじまるよ 手遊び、リズム体操(学年合同)	みんなでうたおう(学年合同) ※音楽専科等	読み聞かせ ☆読み聞かせを楽しみながら聞く	6ねんせいといっしょにうたおう (学年合同)	
1	学活 (0.5時間)(学年合同) ○「なかまづくり」ゲーム ・友達と一緒にゲームをする ☆友達に親しみをもって接する	音楽 (0.5時間)(学年合同) ○みんなでうたおう ・友達と一緒に楽しく歌う ☆知っている歌を友達と歌う	体育 (0.5時間)(学年合同) ○いろいろなならびかた ・学級、小集団での並び方を知る ◆衣服の着脱のしかたを学ぶ ☆衣服の着脱をする	生活 (1時間) ○なかよくなりたないな ・校庭で友達と遊ぶ ・友達と仲よく遊ぶためのきまりや約束を知る ◆校庭での遊び方を学ぶ	行事 (1時間) ○こんにちは1ねんせいのかい ・他学年と交流する ◆出席番号順の並び方を学ぶ ☆人の集まる場所では口を結ぶ。
2	行事 (1時間) ○入学式 13:30 ・ロッカー、靴箱、傘立ての位置を知る	生活 (1時間) ○がっこうのことがしりたいな ・自分の教室を知る ・トイレ、流しの場所を知る ◆個人で管理する場所や、学級で使うものの使い方、トイレの使い方を学ぶ	国語 (0.5時間) ○みつけたものをはなす ・下校途中や登校途中に見つけたものを話す	生活 (1時間) ○がっこうにこう ・登下校時のあいさつや交通ルールを学ぶ	生活 (1時間) ○がっこうのことがしりたいな ・保健室、職員室の場所を知る ◆廊下歩行や、職員室の入り方の約束を学ぶ
3	学級活動 (1時間) ・担任の名前を知る ・返事の仕方を知る ・友達を知る ◆返事の仕方や下校の準備の仕方を学ぶ ◆家庭との連携を図る	国語 (0.5時間) ○「みつけたものをはなす」 ・教室やトイレ、流しで見つけたものについて話す ◆発表の仕方、返事の仕方、話の聞き方を学ぶ	生活 (1時間) ○がっこうのことがしりたいな ・保健室、職員室の場所を知る ◆廊下歩行や、職員室の入り方の約束を学ぶ	道徳 (1時間) ○たのしい がっこう ・学校にかかわる人々に関心をもつ ☆きまりや約束を守る ◆学習の準備の仕方を学ぶ	生活 (1時間) ○がっこうのことがしりたいな ・自分の名前を書く ◆鉛筆の持ち方を学ぶ ☆鉛筆の持ち方を知る
4	図工 (0.5時間) ○すきなもののいっぱい ・好きなもの、描きたいものを想像しながら描く ◆クレヨンなどの使い方を学ぶ	生活 (0.5時間) ○がっこうのことがしりたいな ◆廊下の支度の仕方を学ぶ	算数 (0.5時間) ○なかまをつくらう ・図工で描いた作品を種類や条件などで仲間をつくる	算数 (0.5時間) ○なかまをつくらう ・カードに示された絵の種類や条件で仲間をつくる	国語 (0.5時間) ○これらがっこうでやってみたいことをはなそう ☆友達の発表を最後まで聞く
	一斉下校 ◆安全な登下校の仕方を学ぶ	学年下校 ◆安全を守ってくれる人へのあいさつの仕方を学ぶ ◆安全な登下校について学ぶ ◆出迎えの保護者と連携を図る ☆信号機、道路標識などの意味が分かり、交通ルールを守って通学する			

家庭との連携

- 入学式や懇談会の他、連絡帳や学級だよりなどで家庭との連携を図ります。小学校生活に関するアンケートを実施し、子供たちの課題や、保護者の不安を把握し、指導に生かします。

きまりへの適応と安全への配慮

- 子供たちが、友達と集団で生活しながら、体験をとおしてきまりやルールの必要性や大切さなどを感じて身に付けるようにします。
- きまりやルールは、安全面に関するものを優先的に指導します。特に登下校では、子供が自分の目で危険を予測し、安全に行動することができるように、場面や状況に即した安全な行動を具体的に教えます。

幼児期の経験を生かす配慮

- 入学までに子供たちが経験したことや身に付けたことを生かすことで、意欲をもって学習することができます。子供たちは、園で決められた約束を守って固定遊具で遊ぶことや、大勢の友達と遊びながら自分たちのルールを作ったり、変えたりしながら楽しく遊ぶことなどを経験しています。環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人一人の姿をよく見ながら、子供たちができるように経験していることを生かした授業を行います。

～幼児期の教育から小学校教育へ～

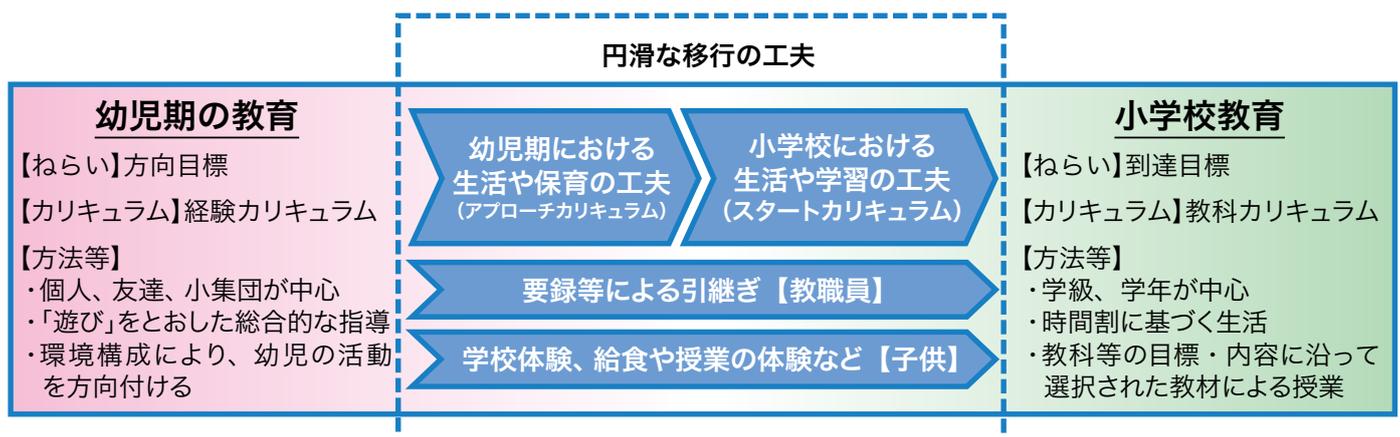
子育ての目安「3つのめばえ」の活用

- **就学時健康診断・入学説明会（小）や保護者会（幼・保・小）**
 - 保護者に小学校の生活や学習について説明する際に、幼児期の教育と小学校教育との連続性を説明するための資料として活用してください。
- **就学前連絡会等（要録に記載された事項の理解を深めるために）**
 - 幼稚園・保育所・認定こども園から送付される要録と併せて、児童の実態をより具体的に把握し、児童理解を深めるための話合いの柱として、就学前の連絡会などで活用してください。

「接続期プログラム」と実践事例集の活用（年長児1月～第1学年5月）

- **「接続期プログラム」**
 - 幼稚園・保育所・認定こども園では、「アプローチカリキュラム」の作成や工夫の指針として。
 - 小学校では、「スタートカリキュラム」の作成や工夫の指針として。
 - 各園、各学校の実態に即した取組の工夫が求められています。
- **「接続期プログラム」実践事例集**
 - 1年を通した連携・交流の実践事例や幼・保・小の具体的なカリキュラムを掲載しています。

子供の発達や学びの連続性を踏まえた教育活動を目指して



■ 発達の連続性を確保する

- 小学校の教職員が、幼稚園・保育所・認定こども園などに積極的に出向き、保育を参観したり、体験したりする中で、就学前の子供たちがどのような生活をし、どんなことを身に付けているかを把握してください。
- 教職員が日常的に連携することにより、子供の課題に適切に対応しやすくなります。幼稚園保育所・認定こども園の先生方に授業を参観してもらったり、幼・保・小教職員の合同研修会で子供の状況について話し合うなど、積極的に連携を図ってください。

■ 生活や学びのつながりを図る

- 幼児期は「学びの芽生え（無自覚的な学び）の時期」であり、児童期は「自覚的な学びの時期」です。この移行を円滑にするために、小学校では、子供が幼児期にどのようなことを経験しているかを見通した上で、それをいかに生かしていくかを考えることが重要です。
- 子育ての目安「3つのめばえ」は、幼児期の発達の特性を踏まえ、特に家庭における教育との連続性を重視して策定しました。それぞれの項目が相互に関連し合い、全体として小学校以降の生活や学習の基盤を培う構成となっており、「教育に関する3つの達成目標」の取組にも発展的につながっていくものです。